

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポ幢ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649 FAX(03)3299-5367
振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言	
原発爆発の犯罪者 東電そして自民党	佐野 周二……………2
小出裕章講演会、新得空想の森映画祭	
愚弄される福島県民、新潟県民そして全国の労働者	原 野人……………3
— 独占資本は限りなく奪う —	
職場には、具体的な不満と問題がいつぱい！……………5	
— 国労東京地本大会 若い人は、国労のたたかう背中を見ている！ —	
参院選結果に衝撃 背後に搾取強化……………6	
— 組合大会から 自治労、JP労組、UAゼンセンなど(四) —	
福島原発事故とJCO臨界事故をつなぐ……………11	
— 被ばくと被害の闘いから脱原発へ —	
福島原発事故被災地と廃炉先進国ドイツの取材報告……………11	
— 「福島現地を踏破して」広瀬隆さん講演会 茨城・東海村で —	
◇資料「口頭弁論で伝えたかったこと」北電は私の質問に答えて！◇……………12	
未来は私たち子どもものもの いい加減目をさませませんか……………14	
読者からのおたより……………14	

旬刊 社会通信

NO. 1154

二〇一三年一〇月二五日号

二〇一三年一〇月二五日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

原発爆発の犯罪者 東電そして自民党

小出裕章講演会、新得空想の森映画祭

原発の危険性を訴えている小出裕章さんの講演会「被曝の時代を生きる」が、九月十五日、北海道新得町公民館大ホールで開かれた。(主催〓Shintoku空想の森映画祭・小出裕章講演会実行委員会・北海道新聞帯広支社)「第18回Shintoku空想の森」映画祭の参加者はじめ道内外から大雨の中、会場満席の約五〇〇人が小出さんの話しを熱心に聞き入った。

竹内乃扶子副実行委員長が司会。主催者代表の藤本幸久実行委員長(映画監督)は、「3・11以降、日本の社会は変わった。核兵器、原発で世界が汚染されている。子ども・若者たちをどう守り、生きていくか考えよう」とあいさつした。

続いて、映画祭ライブゲストの「浪花の歌う巨人・パギヤン」(趙博〓チョウ・パク)さんが、3・11以降の体験を交え、ご自身の歌「核・核・死・慈」(〓カクカクシカジカ)などで盛り上げてくれた。

小出さんは、会場到着の遅れ(雷雨・大雨でJR運休・遅れの影響)をお詫びし講演に入った。最初に一九四五年七月十六日(ポツダム会談の日)の原爆「トリニティ」、続いて広島原爆の実態、核実験の脅威をスライドを使って説明。さらにチェルノブイリ原発事故を経て放射性物質が地球上に撒き散らしたデータを示した。

そして小出さんは、当時の新聞の論調(化石燃料が枯渇する↓嘘だった)を信じて「原子力に夢をかけ」、核兵器はダメだが原子力の平和利用のために大学で原子力核工学科に進学するが、「原子力にかけた幻の夢だった」と話した。

福島第一原発事故の時、運転中だった1号機から3号機の溶け落ちた炉心について、「今どこにあるのか分らない、ひたすら水を注入し、汚染水が溢れている」、運転していないかった4号機には「使用済み燃料プールの底には広島原爆1万4千発を超えるセシウム137があり、事故は収束していない」と断言した。

さらに東京五輪招致で「状況はコントロールされている」と安全性を強調した安倍首相を痛烈に批判した。そして、「この事故の責任は原子力を選んだ東京電力、そして原子力発電を進めてきた自民党政権は犯罪者の筆頭だ」と言い切り、会場から大きな拍手が送られた。

汚染水漏れについては、「最近の問題ではなく、事故から今日まで地震で被害を受けた地下施設の至る所から流れ続けている。いずれタンクも間に合わなくなる、水を入れるのを止めて金属(亜鉛は溶け易い金属)を炉心に流そうと提案している(専門家が集まって緻密な計画を立てる必要)」と述べた。

最後に、「日本は絶対戦争に負けない」と大本営発表で戦争に協力させられたことを話しながら、「福島の事故が起きた時も騙(だま)されたといっても無罪にはならない。未来の子どもたちから、お前はどうかやって生きてきたか問われる。一人ひとりが自己責任を果たすと言うことはとても大事だ」「この事故を引き起こした大人とし

て私自身を許せない。そのためには子どもたちの被ばくを何としても少なくしたい」と多くの質問にも分りやすく答えた。

続いて、新得町在住の高校生・戸荻春香さん（帯広拍葉高二年、泊原発廃炉訴訟原告）は、未来の子どもたちの安全について「汚染された食べ物は高齢者が食べても排泄され放射性物質で日本全土が汚染される」と不安を訴えました。戸荻さんは、泊原発1〜3号機の廃炉を求めた訴訟の第6回口頭弁論（七月二十九日、札幌地裁Ⅱ千葉和則裁判長）で意見陳述を予定していたが認められなかった（未成年？ 裁判長の裁量？）が、報告集会で「口頭弁論で伝えたかったこと」を読み上げ、「HAIRO ニュースNo.8」に掲載されるなど大きな反響を呼んでいる。（資料 本誌10頁参照）

小出裕章講演会記録DVD「被曝の時代を生きる」申込先―森の映画社札幌編集室 携帯090-2052-9902（影山あさ子）、頒布価格は、一枚千円（送料込）。

（小出裕章講演会実行委員会事務局長、さよなら原発！ 新得会事務局 佐野 周二）

愚弄される福島県民、新潟県民そして全国の労働者

―独占資本は限りなく奪う―

汚染水 東電は柏崎刈羽原発6、7号機の再稼働申請をした。愚弄されているのは新潟県民や福島県民だけでなく日本全国の労働者である。

東電の集中すべき任務は、福島第一原発を収束させ、十五万人の避難者と県民に安定した人間らしい居住と職とを保障することである。同第二原発はもちろん、柏崎刈羽原発も廃炉として、国民を安心させることである。原発なしで電力は十分に足りることが今年の猛暑にも実証されたのだから、これ以上子孫に重いつけを回すことになる放射性廃棄物の増産はすぐに止めることである。

福島第一では、複数のルートから高濃度汚染水が漏れ出している。大雨のたびに、地震のあるたびに、海への流出は増加する。350基ある安普請（ヤスブシン、安倍晋三が請け負ったかの意味にも取れる）の仮設タンクでは、すぐに劣化したパッキンからも、強度不足の底部フランジからも続々と漏れ出す。この多くは排水ルー卜から第一原発港湾外に直行している。コントロールされているどころではない。

「シルトフェンス」（水中カーテン）で、専用港湾内に完全にブロックされているともいう。この「フェンス」は、もともと通水性が良いからこそ、港湾内にいかに各種の水が多量に入っても、「フェンス」をオーバーフローすることがないのだ。

安倍政治部長は、麻生次長の提言に沿いナチスの流儀にならってか、嘘も百篇いえば真実となると高をくくっているようである。マフィアのある幹部は汚染水問題で「今の状態はコントロールできているとは思われない」と口走ったが、広瀬直巳親分は「安倍首相の発言は、湾の外に影響が及ぶことがないという意味だ」とした。

安普請タンクからの漏れを受け止める排水溝が湾外に通じているだけではない。港湾のフェンスから外に漏れているだけでもない。格納容器の底部を舐めた地下水は、港湾内に湧き出ているのみでなく、港湾外の何カ所かにも湧き出口をもつ。

骨のないタコやイカの放射能含有量が比較的低いからといって、湾外に影響が及

ばないはずはない。カルシウムと同族元素であるストロンチウム⁸⁸（半減期は二十九年）は特に骨に蓄積する。海藻やプランクトン―小魚―大魚への食物連鎖は始まったばかりである。ストロンチウムの分析には時間がかかるだけに、太平洋近海の魚類調査もまともにはできていない。影響が及ぶことはないと言われ、港湾外の福島沿岸の魚を、政治部や教宣部を含む親分衆とその子どもたちにも毎日食ってもらいたいものだ。

原子炉建屋を囲む遮水壁の必要性は一昨年から東電自身も分っていたが、一〇〇億円の損失増加になるために実行しなかったことが露見した。今さら凍結方式などといっても、流れの激しい部分まで永続的・安定的に凍結させることができるかどうかさえ怪しい。しかも昨秋の拙著『確かな脱原発への道―原子力マフィアに勝つために』でも強調した通り、側面だけでなく底部からも遮蔽することが必要不可欠である。

独占資本と国家 一万四千人の原発事故被災者等が、当時の東電幹部や原子力安全委員会、政府関係者ら四十二人を告訴・告発したのに対し、検察当局は全員を不起訴とした。国会事故調査委員会は「人災だ」と明言しているのに。

二〇〇八年には東電自身が起こりうる大地震による津波の高さを最大で一五・七mと想定していたことも分っている。にもかかわらず東電の強制捜査すらしなかった検察は、「予測不可能」とかたつけて免罪してしまった。原発の過酷事故については、損害保険会社も昔から予測していた難を逃れた。東京海上火災（三菱）等々は、支払い不能・破産となるような大事故が起こりうることを予測し計算したからである。

四十二人が無罪なら、原発を推進した歴代の東電経営者も大株主も、中曽根元首相等々の政治家も通産・経産省幹部も原子力安全委員長も、読売を筆頭とするマスコミ幹部も、原発メーカー経営者も、何の罪も問われることはない。今後の再稼働や輸出や新設によつてどこで何が起るうが、関係責任者はすべて免責される。このような原発推進はアメリカに命令されたり要請されていることではない。三菱は仏アレバと組み、東芝は米ウエスチングハウスを買収し子会社になっている。

独占資本の利潤を全てのものの上に置くことは、今日の国家機関の当然なことである。検察や裁判所が独占資本の利潤追求を根底から断罪することはない。親分衆が「安全第一」などと言うのは、独占利潤を最大限にするための安全第一にすぎない。津波で送迎バスが流され私立幼稚園児が死亡した件では、仙台地裁はこの幼稚園を有罪として賠償命令を出した。独占資本の経営ではないからだ。

早々に十分な利潤を得て、銀行等からの融資を受けやすくし、独占資本の蓄積を安定軌道に乗せるために、関電大飯などととも柏崎刈羽の再稼働は既定の路線である。しかし通常の検査では判らないが、過去の大地震で脆化している配管や機器もある。検出されないひび割れもある。再稼働で、次の大地震によつてどんな過酷事故が起るうが、処罰される人はいない。全ての住民が風上の遠方に避難する以前に、東電の判断が必要となればフィルター付きベントを開放することになる。福島が教えているような、過酷事故に不可欠な地下水からの遮蔽壁さえ造ることもなく。

（原野人）

職場には、具体的な不満と問題がいっぱい

―国労東京地本大会 若い人は、国労のたたかう背中を見ている！―

九月十四～十五日、第64回国労東京定期地方大会が行われた。運動方針では、『組織強化・拡大』を「緊急にして最重要の課題」とし、分会活動活性化と労働条件改善、日常的な世話役活動等により「組織全体で動きを作る」とした。また『合理化に反対し、労働条件の改善、安全確立を目指す闘い』では、「安全・仕事総点検運動を基軸」に、昨年締結した「労働条件に関する協約」の改訂に取り組む、JR貨物の賃金抑制は「認めるわけにはいかない」、エルダ―や出向者の問題改善、JR東日本ステーションサービス (JESS) における労使関係の確立と労働条件改善・国労加入の促進。さらに二〇一四年春闘、安倍政権の暴走に歯止めをかける闘いなどを決定した。

地本の運動方針が抽象的なことは今に始まったことではないが、それにしても毎回代議員から指摘される、職場の要員不足、新賃金制度や今も残る国労差別の問題、CS (契約社員、グリーン・スタッフ) 雇いどめ問題、委託職場の労働条件改善・交渉窓口の問題、職場では公然と噂になっている駅の遠隔操作問題など、一言も触れられていないのは「手抜き」と言うよりも、地本の現場感覚のなさや闘争意欲の欠如としか考えられない。

職場の問題は以下の発言(一日目のみ抜粋)の通り、具体的にシビアである。あきらめてモノを言わなければ、職場はどんどん働きづらくなる。国労(特に分会)の姿勢が日々問われ、若い人は遠くからそれを見ていると聞いていい。

「会社は指導車掌から国労を外している。余裕のないダイヤで食う寝るトイレがなおざりにされ、会社は『自己管理』という。」(八王子車掌)。「職場休憩室からテレビが引き上げられ、エアコンも二八度設定で暑い。管理者と温度の上げ下げの攻防だ。区長に申し入れしている。」(八王子運転)

「構内運転士に教育不十分なまま検修をさせる、深夜で作業が分からない時は『寝ている人を起こせ』と会社。電車で誤乗した客への対応も委託会社にさせようとしている。」(新橋運転)。「委託会社である運輸サービスは特休が五七日。JRと同じ六二日にしてほしいというのが出向者の要求。委託会社との交渉窓口を。本線運転士に戻りたい希望を実現する運動を。」(神奈川運転)

「三六協定で決められた時間を超える超勤は若手中心にサービス超勤になっている。所長に言ったら、若い人から『言ってくれてありがとう。少し早く帰れるようになった』と礼を言われた。」(大宮建築)

JESSでは要員が少ないため、不幸があると勤務変更で三徹二徹の連続になる。CS出身のプロパーは仕事ができるのに、賃金は一六万円と少して『先に希望が持てない』と。乗車証がないので勉強会で隣の駅に行くのにも切符を買う。『自分たちには購入券もないのに、切符を売るために購入券の勉強をしなければならぬ』と。彼らが組合に入らないのは魅力を感じていないからだ。」(神奈川委託駅)

「貨物会社の賃下げ反対チラシ配りに所長が『敷地内ではだめ』、職場で反対署名をしていたらこれにも言ってくる。貨物労組が会社に告げ口している。」(大宮貨物)

「春闘統一行動では貨物・東電へ要請に行き、エリア本部に組合員で書いた檄布を持って行った。分会で勤務の学習会をやり、その後昼食を作って若い人にも食べさせたりしている。」（新橋車掌）

「作業量が多く、超勤に違和感がなくなり要員不足に目が向かなくなる。会社は『要員数は適正』と言い放っている。昇進試験の国労合格率は上がっていないが、試験制度が何のためにあるのか（競争）が忘れられつつある。メンテ合理化後職場に余裕がなくなり、危険と隣り合わせの作業になっている。」（新橋保線）

参院選結果に衝撃 背後に搾取強化

― 組合大会から 自治労、J P 労組、U A センセンから (四) ―

司会 組合大会は十月三日から二日間の連合第十三回大会で終え、一四春闘方針づくりに入る。労組の影響力は悲しく、寂しい、低下の一途。メディアが報じたことは一度もない。これが現実だ。しかし、現実はかならず新しい現実を生む。それが歴史の弁証法だ。全体状況については最後に感想を話してもらいたい。自治労、教組、J P 労組等の動向を聞きたい。

自治労方針 四つの基調

A 自治労大会は私から。大会課題は①運動方針、②給付削減・人減らし、③政治方針、④組織拡大。運動方針の基調は、①持続可能な社会に向けた政治勢力の結集―「共生・連帯に基づく持続可能な社会」を実現するため、民主党など協力政党を中心に、これからのめざす具体的な政治勢力の再構築をめざし、取り組みをすすめる。②自律的労使関係の確立と労使交渉の強化―公務員制度上給与・勤務条件決定システムにおける労使の交渉・協議が十分に位置づけられていないことから、組合の関与の強化を目的とした制度整備をめざす。③公務職場の格差是正と労働法制の適用。④職場・組合員を起点とした組合運動の再構築。

自治労が直面する最大の課題は地方自治体の人減らし―合併そして民間委託、定員減と賃金削減攻撃への対処。地方公務員総数は減らされ続け、二〇一二年四月は前年二万人減の二七六万人。ピークは一九九四年三二八万人、過去一八年で五二万余も減らされた。組織人員減少―一〇〇万から現在八四万―のもっとも大きな原因です。

賃金削減攻撃は従来からの公務員賃金は「高すぎる」と地域住民を動員する政府・財界の息のかかった連中に呼応した自治体首長の独自の賃下げ、さらには三・一一に名を借りた国家公務員賃金七・八%削減の地方公務員への強制がある。

自治労は四月二六日の統一ストライキ、五く六月の県本部単位でストライキ実施でこれに攻撃。実施を四五・七%押しとどめた。自治労本部報告（七月二四日）によれば組合総数一六四四のなか、①削減なしで妥結七四三組合、②削減ありで妥結、または交渉終結七五一組合。そのうちわけは「国の要請どおり」一五、「何らかの緩和措置」七二一、「国の要請以上」五、③独自カット継続等四一組合、④削減なしだが今後提案の可能性ありが二二〇組合だ。政府は「国に準じた削減（七・八%）」をおこ

なわない自治体には、地方交付税削減の「ペナルティを課す」との方針だから、自治労の闘いはまだまだこれからとなる。

政治方針

衆・参選挙で組織内・推せん議員は激減した。「参加・提言・改革」、それにもとづく「政策・制度要求実現」が、連合の基本方針で、自治労も変わらない。民主が少数野党となった、さあどうするが、政治方針となる。自治労の政治の方針は基調の①の考え方のもとこうあります。「解散総選挙後、『中道』『左派』を代表する勢力が十分に確立しきれず、原発や憲法などに対する国民意識に対応した政治勢力を、民主党など、協力政党を中心に再構築する事が急務」と。

具体的には民主党を中心に①「中道」を代表する政治勢力の結集、②「保守勢力」「新自由主義」への対抗軸となる政治勢力の総結集を「めざしたい」。

B 「保守勢力」、「新自由主義」の対抗軸が「中道の政治勢力」でこと？ 「保守勢力」と「新自由主義勢力」はどう違うの？ 「中道」って？ 「リベラル勢力」なんて云う者もいる。

A そう云ってる連中に聞いてよ。なんでぼくが代弁する必要あるの。

大会論議

司会 大会はどういう状況だったの。

A 発言は四二県本部五六人。賃金闘争のあり方、労働基本権、地公波及阻止、要員、非常勤組織化を中心にそれこそありとあらゆる問題が出されていた。委員長は総括答弁で自治体職場全体状況についてこう述べていた。

「この間の人員削減や、公務員バッシング、個別の賃金カットで現場は疲弊している。建前や理想、未来への希望や理想を討論することも大切だが、本音の議論を積み重ね、取り組みを」と。

政治方針にかかわる主な発言は①保守、新自由主義への対抗軸となる政治勢力の総結集が必要。どのような姿を求めるのか、②あらためて、民主党・連合のもとで、自治労が積極的に政治勢力をつくれ、③あらためて勢力の総結集をはかる方針を明確にうちだせといったもの。

本部は「民主党再生の道のりは見えないが、方向性は間違っていない。政権再奪還にむけた奮闘を望み、自治労も協力する。自治労の立ち位置について『民主リベラル』という新たな政治勢力も再構築が必要。官民分断を凶ろうとする外部勢力もあることを認識し、慎重かつ大胆に対応する」

司会 民主党大敗北で連合内の政治路線にかかわる矛盾は、生活、労働条件の悪化ともかわり拡大する。自民党は旧総評勢力が影響力を増すことを危惧するだろうか。日教組はどうだったの。

不安

A くわしくは知らない。『通信』（一一五三号、一〇月一日）に教員Aさんの文章がのせられた。今の教育職場そのものじゃないかと思う。他に日の丸・君が代、教科書

はむろん社会の矛盾が教育職場、教育労働者に転嫁されている。

司会 教組が政治方針に民主党支持を明記せず、「政策実現可能な政治勢力と支持協力を構築」としたことが報じられた。

A 連合は選挙時には民主支持で選挙戦を取りしきる。今度の政治方針でもそうだが、一般的な方針では民主支持は文字にしてない。連合の政治方針の枠内の方針だ。

B 民主にとっては今も昔も「強い」支持基盤は連合だけ。参院選比例の当選者七人中六人が連合の組織内候補者だったことが典型です。民主党を割る力はない。逆に連合が自民に接近することで大政翼賛会（総保守）状態がつけられていくんじゃないか。

A 連合の主導勢力JIC（金属労協）自動車・電機・鉄鋼・造船）はその企業と産業の興隆しか考えない。「民主がダメなら自民に頼むさ」が現実だ。

自治労、教組は「自民党さんよろしく」とは歴史的になりません。「せっかく、二大政制による政権交代の仕組みが出来たのに」「これからどうする」との不安がぜんぶ方針にさらけ出されたことでしよう。

U Aゼンセン 日本一のマンモス組合

司会 JP労組、U Aゼンセンは落っこちた、JP労組は日本最大の単組、U Aゼンセンは一四五万組合なのに、なぜかしら。

C U AゼンセンはJC組合とちがい中小企業、非正規を組織するゼネラルユニオンです。組合員構成はパート、女性労働者が多くを占める。一四五万組合員中短時間労働者は七二万三千人の五一・二%、女性労働者八二万八千の五八%というようにです。組合機構は製造、流通、総合サービスの三部門に整理され、加盟単位組合一九〇五、加盟組合二四九六、支部・分会は八八四五にもなる巨大な「モザイク」組合です。大企業の下請け企業のように、締め付けはきかんのじゃないの。

司会 落っこちたことをどう考えているの。

C ゼンセンは昨年からの国政選挙で組織内・準組織内議員を失った。会長さんはお詫びのうえ、①他産別に出来て、私たちに出来なかった事実を謙虚にうけとめる、②民主党がもう一度自民党にとって代わる二大政治勢力の一角をしめるには「旗」、国の基本政策や政策判断の軸を明確にし、『天下同憂の士』が集う新生・民主党になってほしい、③民主党は「解党的出直し」必要とっているが、その「解党的出直し」を注視していきたい。

ゼンセンは日章旗先頭にゼンセン旗、都道府県支部旗入場から大会が始まる。ゼンセン会長がいう「旗」「天下同憂の士」がどんな政治勢力を結集したいかはわかる。

JP労組 搾取強化の大波のなかで

JP労組については少し詳しい説明がある。JP労組は大会を二ヶ月伸ばし八月とした。組織内候補勝利に全力を上げ、勝つためだった。組合員がもつとも関心を寄せる課題は①要員ふやせ、②自爆営業なんとかしてくれ、③配達は交通事故を起こせばすべて自己責任そして処分、こんな労務管理やめてくれ、④ボーナス切り下げけしからんという日常的労働条件をめぐる問題だ。

J Pではさらに郵政三事業（郵便、貯金、保険）、とりわけ郵政事業への将来も不安が強い。そんななか郵政民営化の二〇〇七年十月からこれまでの六年間で社長が五人も替わった。郵政は世界最大の郵便・金融企業、そして株式上場がある。利権めぐり政治にふりまわされている。さらに経営方針は効率化一辺倒で現場で働く者の苦しみ、不安をいっさい切り捨てている。

旧全通、全郵政統合から五年、組合は強まっているか、逆に弱くなっている。分社化で支部、分会機能がそうだ。その結果、要員はたらず連日の超勤、これをなんとかしろとの声。

組合員の将来の生活設計にいちばんかわる人事給与制度と労働力政策の改悪です。この二つについてはJ P労組の仲間がくわしい報告を寄せてくれている。次号で紹介してくれると嬉しい。この二つの改悪案の要点は①基本給を役割基本給と成果役割給二割に分割する。これで基本給はさがるだろう事への不安。②労働者を総合職、地域基幹職、新一般職に分割し労働者管理をてっぺんしたい。③支店チーム、個人による業績手当の再編成、④退職手当については貢献度を反映させるといふポイント制への移行などだ。

郵政職場はこのように搾取強化の大波のなかにある。だから組合員は方針案に「読めば読むほど職場実態とかいり」「思いや願いは完全にかき消され、ひたすら美辞麗句が並ぶだけ」と突き放し、「組合や全国大会はどうでもエエわ」の雰囲気強いという。こんななかでの組織内候補後援会カード集約だから、職場は「笛吹けど踊らず、組合員はまったく関心を寄せず、話題にすらならない」状況だったようです。

司会 組織内候補者は落ちたよね。

C 完敗だった。J P労組組合員は二三十万人、得票はわずか一二万弱でしかない。委員長は「結果を真摯に受け止める必要。これまでの運動が組合員の求めるものになっていなかった。雇用と会社の持続的な発展を考え、労働組合としてのチェック機能を果たす。組合員の信頼を取り戻し働き甲斐のある職づくりをすすめよう」なんて挨拶してた。大会発言は「三本、大会を傍聴した組合員は「挙手なし、発表会みたいなもん」と切り捨てたよ。

司会 方針案への賛否は？

C 賛成三三六、反対一二四。約三分の一が反対。展望はある。活動家、自覚的な労働者たちは「あきらめていいのか」と必死に訴えているからね。

電力そしてJ R

司会 電力総連の動向だけか聞いてませんか。

B 記者仲間に取材に行くかと聞いたたら、沖繩だよ。おれの取材費ではムリ。たとえば行ったにせよ、アチラさんはいい顔しないしね。

東京日比谷の図書館は日本一だ。あらゆる業界の業界紙はむろん新聞、雑誌がそろっている。しかも地下と一階は工夫こらした催し物がおこなわれている。日比谷で集会がある時、できるだけ立ち寄りするようにしてるんだ。ある仲間が、「電気新聞（九月六日号）に原子力再稼働、早急に―電力総連、沖繩で定時総会の記事」と教えてくれた。

電力総連会長さんの発言は、①停止の長期化に復興、経済再生の足かせとなるばかりでなく、電力の安全・安全供給を支える基盤を揺るがしかねない憂慮すべき事態、したがって、②安全が確認された原発の再稼働が、早急かつ根本的な解決策になる。

C 労資協調を通りこし労使ゆ着そのものだ。話変わるけどJR北海道の事故続発、安全無視についてJR三労組は何かモノいつてるのかしら。

司会 過日、友人から新聞記者が「JR北海道のもっと正確な情報を知りたいから組合を取材している。さっぱり要領えない。くわしい人を紹介してくれないか」と連絡がきたと。組合は口を閉ざしているとしか思えない。

資本は一九五〇年代、もっとも戦闘的、階級的労働組合だった全電力を分割という手法でつぶした。国鉄は分割・民営化ね。敵の手法は共通している。JR二労組は労資協調だが、国労はがんばってほしいんだけどね。

経団連 ベートーベンの名曲

司会 経団連の動きはどうか。

D 彼らはじつくり構えている。総額人件費、企業の支払い能力、生産性向上推進は資本にとって、ベートーベンの名曲のようなものだから、変える必要はない。連合はわれわれの考える方にどんどん寄ってきている。もつと「仲良く」なる必要ありとね。

司会 一三春闘の総括は？

D 「昨年年み」と涼しい顔してる。要点は五つ。

一つは、今年の春季労使交渉は、一二年の終わりから大胆な金融緩和などが功を奏して為替や特価が好転し始め、日本経済に明るい兆しが出てきたなかでスタートした。

二つは、春季交渉は、交渉時点での経済状況や将来の見通しに大きく左右されるものではなく、自社の存続・発展と従業員の雇用維持を最優先に考えながら、昨年从今年にかけての業績をベースに近年の実績も考慮しておこなうもの。

三つは、今年の交渉結果を見ると、この基本的な考えに沿っておこなわれた。

四つは、労使交渉である「労使自治」と「労使協調」を引き続き大切にしながら、企業経営上のさまざまな課題に向け、より長期的な視点に立って話し合うことの重要性を労使があらためて認識する契機として、今年の春季労使交渉は位置づけることができる。

五つは、労働条件全般に関する幅広いテーマを議論する傾向が拡大している。これは「労使自治」と「労資協調」のたまものだ。

司会 一四春闘へはどう考えてるの。政労使協議が九月二〇日から一月までおこなわれるとのことだが。

D 経団連が「労使自治」なんて言葉を使ったのは始めてです。なんらかの準備を始めたことはたしか。彼らは来年は従来になく方針づくりが難しくなるのではないかと、万が一ベアなんてことを考える必要がでてくれば、雇用・労働市場改悪を強めたいと考えているのではないかと。いずれにしてもこれからだ。

司会 労働者側はバタバタしすぎて。労働者派遣法改悪、首切り法など本番はこれからだ。次号で全般的な総括、そして方向性について議論したい。(つづく)

福島原発事故とJCO臨界事故をつなぐ

―被ばくと被害の闘いから脱原発へ―

住友金属鉱山の子会社「JCO」が核燃料を加工中、ウラン溶液が臨界状態になり、二人の労働者が死亡し一人が重症、六六七人の被曝者を出した事故から十四年がたつ。九月二十九日、「原水爆禁止日本国民会議」「茨城平和擁護県民会議」など主催による一四回集会在、水戸市で開かれ、約五百五十人が参加した。

集会は、「福島原発事故とJCO臨界事故をつなぐ、被ばくと被害の闘いから脱原発へ」の内容で、弁護士海渡雄一さんが講演。福島原発の避難者の遠藤陽子さんは「原発事故は私達の生活を根こそぎ壊した。明日の展望を持ってない生活が続いている」と思いを吐露、原水禁新潟の中村進さんは「何となく挫折感を与える方向で宣伝されているが、私たちは挫折しない。柏崎刈羽原発の再稼働を許さない」と力強く訴えた。

東海原発差し止め訴訟共同代表・常総生協の大石光伸さんは「七月の裁判は原告住民の弁論を認めなかった裁判長に対する原告側の『異議申し立て』で法廷は騒然。裁判長は『閉廷』を宣言し退廷してしまった。しかし、つい先日の進行協議で裁判長は一転、原告側の主張を認めた。『毎回、原告の被害論をA4二枚で一〇分程度で弁論を認める』と。何一つ解決されていない福島事故の実態の検証なくして裁判はありえない。原告団総勢二六六人、福島原発の過酷事故がもたらした放射能の被害にしっかりと向き合い、自分自身の身近な問題からの被害弁論となる。今、地域から、職場からの闘いがとても大事。平和擁護県民会議の皆さまと一緒に頑張って行きたい」と。講演と訴えを受け「再稼働を断念させ、廃炉作業をスタートさせよう」などのアピールを採択。その後参加者は「JCO事故を忘れない、原発はいらない」とデモ行進。東海村長が脱原発の村上達也氏から「中立」の山田修氏に交代したことで、不安の声も漏れ微妙な影を落としていたが、集会内容は参加者の心を晴れやかにした。(嘉)

福島原発事故被災地と 廃炉先進国ドイツの取材報告

―「福島現地を踏破して」広瀬隆さん講演会 茨城・東海村で―

- ◇日時 13年10月20日(日) 12時30分開場、13時開演、16時30分閉会
- ◇場所 東海文化センター2階(東海村大字船場、常磐線東海駅下車、徒歩15分)
- ◇参加費 五百円
- ◇主催 原発事故からくらしを守るネットワーク(連絡先 相沢 一正)
- ◇主催者から

原発の過酷事故は単なる杞憂(きゆう)にすぎない、と豪語していた電力会社・事業者も、それを真に受けて原発の設置・稼働を認めてきた裁判所も、もう同じことを繰り返すことはできません。3・11後、過酷事故は「現実」になりました。今私たちは、ここからしか出発できません。それは過酷事故のもたらしている放射能の被害にしっかりと向き合うという事です。

この講演会は、一般には知らされていない被曝現地の実状を明らかにしてもらうために開かれます。講演会を主催する「原発事故からくらしを守るネットワーク」は東海第2原発の再稼働に反対です。その立場から、再稼働には中立だと言う東海村新村長の原子力政策を注意深く見守り、私たちの主張を粘り強く提起していきます。隣接する村内外の人たちとの連帯を通して、再稼働問題が大詰めに来た時、真の力を発揮できるようなゆめまめ活動を続けます。

◇資料 「口頭弁論で伝えたかったこと」 北電は私の質問に答えて!◇
未来は私たち子どももの いい加減目をさましませんか

帯広柏葉高校二年、新得町在住の戸苧春香です。

二〇一一年三月の原発事故は私の人生を一気に曇らせました。福島原発の状況を報道するテレビの声を聞きながら、私は不安でのが詰まるような思いがし、視界が灰色になっていくように感じました。あの時の報道でも既に日本国民へ向けての計画的なだましが始まっていたのだと思うと、なお、憤ろしい思いです。

私はそれまで、日本がこんな残酷な国だったとは知りませんでした。私は事故からの二年間、この時代に生まれてきたことを何度悔やんだかわかりません。

給食 当時中学二年生だった私にとって、一番身近な危険は給食でした。家での食事は食材の産地を気にしているため安心できましたが、給食は栄養バランスのことしか考えておらず、放射性物質に汚染された産地の物でも容赦なくメニューにとり入れてきました。私は母のスーパーへの買い物についていき、その時期に売られる野菜の産地を記憶しては給食できれいに取り除いて、食べても安全な産地の食材と思われるものだけを食べていました。

高校生になった私は、やっと給食という危険から逃れることができました。が、それと同時に近所に住む男の子は保育所上がり、給食という危険と隣合わせの二三年をスタートしました。都道府県の位置関係がまだ分からない小学校低学年までの子どもたちは、危ない食材を回避しようにも私が中学生の時に取っていたような方法は使えません。親がいくらか心配していても、「今日の給食の大根と小松菜は食べちゃだめだよ」などと忠告しても、親が弁当を持たせない限り、幼い子どもは自分一人では危険を避けられないのです。

この現状を放っておくわけにはいきません。成長期にある子どもにとって、給食を食べる九年間、一二年間はとても重要な時期です。

情けない 未だに原発を続けようとしている、というところを見ると、知らない、というか知ろうとしない、知りたくないんだと思いますが、もうすでに放射性物質による健康被害は出ているんです。後回しにしていられる問題ではありません。

みるみるうちに人口は減ります。子どもがいなくなりません。子どもがいなくては未来がありません。自分は今もうすぐ死ぬからどうでもいいと思ってるんですか。何も心配せず食べたいものを食べ、行きたい所へ行ける幸せな子ども時代を送り、この先何が起ころうともどうせ自分は居ないのだからどうなってもいいと思ってるのでしょうか。たとえ汚染されたものを食べ発病しても寿命だと思ってるんですか。死んでいくのでしょうか。

原発が吐き出した廃棄物プルトニウムの半減期は二万四千年ですが、やっと半分になるその時までにはいい思いをする期間は何年あるんですか。一時だけ気分がよく、後に良いことは何一つ残らない、さらに一度始めたらやめられない。原発は大麻と同じですね。目の前のことしか見えず負のサイクルにはまって抜け出せないなんて、日本の大人は本当に情けないです。

核廃棄物 「核廃棄物はこれから長期間にわたって嚴重に管理していく必要がある」とは言いますが、数千年前の文字すら解読できないのに、何万年も後の世代にまでどうやってそれを伝えていくつもりですか。何万年後どころか、現代の子どもたちにさえ、原発の問題点や放射性物質の恐ろしさを隠し、ろくに伝えていませんよね。

自分だけいい思いをして子どもたちの未来を汚しても平気なんですか。罪悪感もないんですか。恥ずかしくないんですか。

後片付けできない 「次のおもちゃを出すなら、出したおもちゃを片付けてからにしないさい」と幼い頃に言われた記憶はありませんか。現在、福島原発事故でばらまいた放射性物質は出しっぱなしです。事故から二年、日本で最初の原発を動かし始めてから五〇年経ちましたが、私たちは未だにこれらを一粒残らずすべて片付ける術を知りません。後片付けが出来ない者に、原発を動かし続ける権利などありません。それとももしかして、北電はそんなすばらしい技術を持っているんですか？

七月一七日の北海道新聞によれば、北電は冷却機能停止から一九分後に炉心溶融が始まると予測しているそうですね。北電は冷却機能停止から一九分間で何ができるんですか。福島原発事故の時はその一九分間、東電は一体何をしていたんですか。

ダメージ 泊原発で事故が起きた時「想定外」という言葉を一度も使わない自信がありますか。「想定外」という言葉は禁句です。全ての場合を想定してください。福島事故を見れば放射性物質が漏れることがあるということは、れつきとした事実です。北電は、放射性物質が漏れた時、どう対処することで安全を確保するというんですか。泊原発で事故が起きれば、放射性物質は日本の頼もしい食糧基地である北海道をあとという間に呑み込み、農業、漁業を永久にダメにします。北海道を死んだ土地にしてしまったら、私たちはどうやって生きていけばよいのでしょうか。

「原発をやめたら経済がどうこう」などと言いますが、原発をやめると事故の後始末をするのではどちらがより経済へのダメージが大きいでしょうか。より失業者が多いのでしょうか。より心の傷が深いのでしょうか。

勇氣 ドイツは福島原発の事故を機に原発推進派だったメルケル首相が脱原発を決定しました。それなのになぜ、日本にはそうする勇氣がないんですか？ これだけひどい事故を起こしておきながら、国民のほとんどはその被害に自覚さえありません。

日本は命よりも経済を優先し、ぐずぐずと原発を動かし続ける、こんなならしなくい国だったんですか？ さらに、大事故を起こした実績のある日本の原発を恥もなく輸出しようだなんてもつてのほかです。一番大切なものを忘れて人間として正しい選択ができなくなっているんじゃないですか。無表情で必死に言い訳をして原発を動かし続けようとするその精神が理解できません。

いい加減目を覚ましませんか。

夢 これまで私たちを含め全国のたくさんの人たちが原発の危険性を訴えてきていますから、様々な基本知識が自然と耳に入ってきているはずですよ。

今から原発反対へと意見を変えても何らきまり悪いことはないではありませんか。現時点でもうすでに大人が残した原発は私たち子どもにとつて大変な重荷です。それをさらに増やすつもりですか。自分の子どもや孫の顔を思い浮かべてもう一度よく考えてください。私たち子どもは大人たちに憤りを感じています。私はたかが電気のために命を危険にさらし、涙を流すなんて、まっぴらごめんです。そんなものに人生を左右されるのも、未来を縛られるのも許せません。

未来はあなたたちのものではありません。私たち子どものものです。大人の一時的な都合で私たちの未来をこれ以上汚さないでください。

私たちの夢を奪わないでください。北電は、今すぐ私の質問に答えてください。

〔『泊原発の廃炉をめざす会』「H A I R O ニュースNo.8」二〇一三年九月一〇日〕

◇ 読者からのおたより ◇

介護 国鉄闘争では大変お世話になりました。次のステップが両親の介護となり稚内を離れ、旭川に移転しました。『社会通信』を直接送付して戴きますこと、宜しく願っています。(旭川・A) 編集部より 「介護」、私の友人は「楽しみ」ながら、「気楽にいこうぜ」とやっていらっしやる。そうは言っても、やっぱりたいへん。ご自身のことも大切になさってください。

中東問題 正直、今の僕の知識(浅さ、狭さ)では、どう整理し、どう解決していけばよいのか、殆どわからない。パレスチナに比べてイスラエル、アメリカの方に道理があるとは到底思えない。ここまではわかるが、シリア、エジプト、イラン、イラク、アフガンをどう捉えるか。一方の極にある西欧・米の帝国主義をどう始末すれば良いのか。国連も用をなさない (茨城・M)

編集部より 僕も同じです。数冊の本を読み始めています。近く、私なりに考えたい。期待して！
郵政職場 先日日曜出勤した時のことです。朝のミーティングで上席課長代理が「支社がモニターゆうパックを社員宛に差し出して言葉遣いはどうだったのか。丁寧な対応をしているかを調査をしています。最近是一般の人たちにも調査依頼をしています。そのゆうパックの中にカメラを入れています。日頃から丁寧な配達を心がけて下さい」という周知があり、「そこまでやるのかいな」と思わず笑い出しそうでした。モニター調査をするよと言う半脅迫的なことに時間を費やさず、現場の実態を直視して「業務量に応じた要員」を配置すべきだと思っております。(大阪・YAS)

編集部より 郵政だけでなくどこにでも、現場はしめつけ、「キャリア」はどんな大失敗も容認。
第三五回連帯する夕べ 恒例の上記集いが九月二十日、東京都内で行われました。スローガンは「労働者が主人公 社会をめざそう」、「JAL不当解雇撤回闘争をはじめすべての争議に勝利しよう」 「労働者の首切り自由や、使い捨ては許されぬ」。JAL争議団の仲間が大勢参加、寸劇、そして物販に汗を流していらっしやいました。(東京・M)

編集部より 闘争終わったのに続けている。いつもと変わらぬ手づくり料理が会場いっぱい。渡邊和彦さんと反合研連動 国鉄反合理化研究会は、渡邊和彦・佐々木守雄両代表・早田昌二郎事務局長のもとに、一九七一年三月十五日に結成されています。「反合研」を語る時には懐かしさというよりも、学舎(まなびや)の東京・国労西ヶ原寮「一泊学習交流会」で、国労はもとより全国の闘う仲間の皆さんとともに、夜を徹して熱い激論を交わしてきたこと等は、自分を「人間として労働者として鍛えてくれた大切な場所」であったことを、つくづく実感しています。

国鉄北海道反合研における「総会・政治学校」に出席された中央反合研の渡邊代表を囲んで、遅くまで熱心に交流出来たことも、今となっては忘れ難い思い出です。渡邊和彦さんをはじめ「反合研」に結集されてきた全国・全道の先輩・同志・仲間の皆さんに、深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。(二〇一三年九月十四日 国鉄北海道反合研元事務局長 松里 福慈)